

公表

児童発達支援 事業所における自己評価総括表 **※利用実績なし**

○事業所名	チャイルドハート小倉アイリス			
○保護者評価実施期間	年 月 日 ~ 年 月 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	年 月 日 ~ 年 月 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1			
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート小倉アイリス			
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日 ~			令8年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日 ~			令7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令8年1月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SSTを重視した取り組みを行っている。	ルールを可視化して掲示する。 見本となる作法や言葉遣いをその場で示している。 納得して行動できるような環境を整えて関っている。	スタッフが率先して見本を示す。 具体的にほめて、出来たことが意識できるように働きかける。
2	自分の意見や感想を言えるような働きかけをしている。	終わりの会でテーマを決め発表する。 イベント内容、外出先、昼食などを決める際に、スタッフがフォローしながら発言しやすい環境を整える。	スタッフはファシリテーターとして関わる。 子ども達で話し合い、決定できるように促す。
3	様々な体験ができるようにプログラムを考えている。	外出の際は公共交通機関を利用する。(時間を意識する。) イベント毎に新しい役割を伝え、経験値が増えるようにする。	苦手だと思う事や初めての出来事にも挑戦できるような話題やイベントを提供する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様と事業所の見解に乖離がある。	保護者様からの苦情などがないため、安心していた。	ご利用の皆様(保護者様・子ども)の意見や思いを受け止める環境を整える。
2	地域交流ができないない。	事業所での活動を活発にしているため(外出など)後回しになっている。	情報収集を行い、地域活動の拠点を探す。
3	スタッフの年齢が偏っている。	スタッフ募集は随時行っているが、登用にまで至っていない。	様々な媒体を利用して、スタッフの確保を図る。

公表

児童発達支援 事業所における自己評価結果※利用実績なし

事業所名		チャイルドハート小倉アイリス				
		公表日 令和8年2月15日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。				
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。				
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。				
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。				
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。				
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。				
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。				
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。				
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に對して発信しているか。				
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。				
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。				
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。				
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。				
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。				

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート小倉アイリス				公表日 令和8年2月15日
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	いいえ	工夫している点 必要に応じて机を動かすなどしている。	課題や改善すべき点 必要に応じてパーテーション等を活用しているが、学習を終えた児童の声の大きさが学習に取り組んでいる児童に影響を与える場面がある。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		適切な配置数を確保している。	スタッフのスキルによって子どもの状態が変化することがある。 情報共有や研修を通してスキルアップをしていく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		ルール等を写真や手順書を用いて、できる限り可視化している。	トイレの入り口が狭いため、スタッフ間の声掛けを密に行い安全に配慮する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		5Sを意識して空間作りをしている。	掃除が形骸化しないようにスタッフ間で留意する。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		本人の希望や状態に合わせた場所を確保している。	利用人数が多い日は特に配慮が必要。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	始業前・終業後の話し合いを意識して行っている。	非常勤の参画が十分とはいえない。 ⇒必要に応じて勤務時間を延ばす日を設定している。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者向け評価表をスタッフ全員に周知して、話し合いの上業務改善につなげている。	個別の機会は連絡帳や対面で対応しているが十分とは言えない。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日常的に意見を表出できるような環境を整えている。	不定期な出勤となるスタッフが意見を言えるような機会を設ける。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3	第三者評価は導入していない。	法兰チャイズ本部の定期的な評価を全スタッフに伝え、業務改善につなげる。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		CH本部研修や外部研修に積極的に参加するよう取り組んでいる。	全スタッフを対象に、計画に沿った研修等の参加機会を確保する体制を構築する。
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムについてスタッフで話し合っている。	非常勤の参画が十分とはいえない。 ⇒必要に応じて勤務時間を延ばす日を設定している。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		日頃の支援の中での気づきや取得した情報を、スタッフ間で共有している。	非常勤を含めた全スタッフ参加の話し合いの場を適切に設ける。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		日常的に検討の時間を設けている。	余裕を持った検討会の実施。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	いつでも閲覧できる場所に保管している。	共有が不足している。 ⇒情報共有の確認を行なう。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	スタッフ間での情報共有をアセスメントと照らし合せている。	情報発信と必要な専門知識が得られるように工夫する。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		日々の話し合いを計画書に反映させている。	『地域支援・地域連携』に関する活動が少ないでの、情報収集や情報発信が必要。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		意見交換の場所を積極的に設けている。	非常勤を含め全スタッフがプログラムの立案に参加できる環境を整える。

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		スタッフだけではなく、子ども達の意見も取り入れながら試行錯誤している。	特定のスタッフの意見だけでなく、全スタッフがアイデアを出せるように、日頃の活動を意識して行う。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別活動と集団活動のバランスを考慮しながら支援している。	短い時間でも集団活動を取り込む。検証を行い次につなげる準備を整える。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		スタッフの得手不得手を踏まえて、役割分担を確認している。	スタッフの役割が固定化しないように指導していく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		振り返りを必ず行い、不在スタッフにも後日情報を伝えている。	『報・連・相』の重要さをスタッフが認識できるように指導する。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録は滞りなく行っている。	記録はとっているが、話合いでの検証・改善が多い。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		見直し時にモニタリングを行い、見直し等に反映させている。	全スタッフに細やかな周知が必要。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4		全スタッフにガイドラインを配布している。	組み合わせを意識して支援を行えるよう説明と理解を促していく。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		意見を聞く機会を設けると共に、ゆっくりと時間をかけて話し合うなどを心がけている。	スタッフのスキルにより対応に差が出るので、細やかに指導行う。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		基本的に児発管が出席している。	経験のあるスタッフの参加も視野に入れていく。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1	相談支援員を主に体制を整えるようにしている。	全ての関係機関との連携が希薄。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		保護者様からの連絡、学校からのプリントなどを活用している。 担任の先生との連絡を密に行っている。	各学校によって情報提供のやり方や時期に差があるため、確実な情報収集の方法を周知徹底する。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		4	支援相談員に情報提供を依頼する。	支援相談員からの情報に頼っている。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		4	該当する事例が発生した時に備える。	該当者なし。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	1	講習会や研修会に積極的に参加している。	研修等の参加に限られている。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	3	情報収集に努めている。	ほとんど交流がない。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3	情報収集に努めている。	積極的な参加には至っていない。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や連絡帳、SNSを活用しながら共通理解に努めている。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	家族参加の研修会は行っていないが、質問や相談事には速やかに対処するようにしてい折る。	家族参加の研修等は行っていない。 情報提供等を積極的に発信し、受け止めていただく環境設定が課題。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明行っている。	わかりやすい表現を今後も続けていく。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		日々の支援中の会話などから意向をくみ取れるように意識している。 細やかな情報収集に努めている。	全スタッフが意思を尊重する謙虚な姿勢で臨む。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		計画書の同意を頂いている。	全ての保護者様に示しながらの説明が出来ていないので、工夫が必要。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		相談があった場合速やかに対処している。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4	保護者会等の開催は実施していない。	保護者会の開催予定はない。 開催は必要ないとご意見をいただいており、慎重な対応が必要だと考えている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		申し出等があった場合は迅速に対応している。スタッフが受けた場合は管理者に速やかに報告し対応する体制をとっている。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		SNSや連絡帳を活用した発信をしている。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報に関する知識を日頃の会話と	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		事業所内のルールを可視化する。SNSの活用や必要であれば対面での情報伝達を心がけている。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	地域住民の方を招待することはないが、地域のイベントに参加する機会を設けている。	検討が必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		年に数回訓練を実施している。 マニュアルはいつでも閲覧できる状態にしている。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPは策定している。 訓練は年に数回行っている。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		契約時に情報収集を行っている。 服薬等の変更や状態変化があればお知らせしていただくように依頼している。	情報共有を徹底する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	2	保護者様からの情報を基に対応している。	医師の指示書の提出はない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		毎月安全計画の立案、振り返りを行いその都度必要な措置を講じて支援を行っている。	早急に周知行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	SNSを活用して家族へ周知する体制を準備している。	早急に周知行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		日頃からヒヤリハットの重要性をスタッフに伝え、文書化して検討行い再発防止に努めている。	事業所の思いと保護者様との気持ちが乖離していた。(今回のアンケート) 細やかな配慮が必要。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修は適宜行っている。 日頃の支援の中で虐待につながる言動はないかをスタッフ間で常に話し合っている。	虐待に関する専門知識を、日頃の支援の中で全スタッフに指導していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行ふかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束マニュアルを基本にしている。	身体拘束が必要となる事例は今のところ発生していないが、研修等を通してスタッフの知識を深めていく。